

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Examination of Musical Effects on Gaze Patterns in Portrait Drawing 《筆頭論文》	共著	2018年6月	International Journal of Research and Surveys, Innovative Computing, Information and Control, Part B: Applications, Vol.9, No.6, pp.501-507.	似顔絵描画時の1分当たりの視線移動回数と描画視線数、および心拍変動を比較することによって、音楽がもたらす生理的変化と描画への影響について検討した。その結果、速いテンポの音楽聴取時は、遅いテンポの音楽聴取時よりも、1分当たりの視線移動回数が有意に増加することを確認し、集中力レベルおよび観察力が増加することを報告した。(ページ数:7頁) (著者名 Gen ONISHI, Ayaka KOCHI, Hiroshi ARAO, Syu YORIFUJI, Akira HASEGAWA, Tsuyoshi SYOJI) (担当:研究全般)
2 (学術論文) 注視点計測による似顔絵を上手に描くための特徴量抽出 《筆頭論文》	共著	2016年8月	日本感性工学会論文誌, vol.15, No.4, pp.553-561.	本研究では、アイトラッキングシステムを用いて、似顔絵の上手な人と下手な人の違いを客観的に評価する手法を提案し、その数値化・可視化をおこなった。似顔絵の上手な人は、下手な人に比べて、描画視線率および1分当たりの視線移動回数が有意に大きくなることを示した。また、似顔絵が下手な人は注意力が散漫になり、集中力が欠損する傾向があることを示し、専門家および芸術家のスキルの一部を数値として抽出することに成功した。 (ページ数:8頁) (著者名 大西巖, 柏尾俊樹, 依藤周, 河内綾香, 正司強) (担当:研究統括)
3 (学術論文) ニューラルネットワークを用いた色感性モデルの構築 —個人差の抽出過程に対する検討・考察— 《筆頭論文》	共著	2012年2月	日本感性工学会論文誌, vol.11, No.1, pp.103-111.	デザイナーおよび専門家の色彩に対する感性を表現するモデルをニューラルネットワークを用いて構築した。内部解析の結果、色から感性を抽出する過程において、個人差を抽出する部分と、共通部分に関する重要な知見を獲得し、さらにデザイナーおよび専門家の意識的・無意識的な評価基準がモデル化できる可能性を示した。 (ページ数:9頁) (著者名 大西巖, 上中田歩, 太細孝, 関口彰, 正司強, 木村一郎) (担当:研究統括)
4 (学術論文) ボタン押し音評価に関する検討 (ニューラルネットワークによる印象評価モデルの構築) 《筆頭論文》	共著	2011年6月	日本機械学会論文集, C編, 77巻,778号, pp.2290-2299.	オーディオ機器などにおける機械式ボタンの押し音の印象を、ニューラルネットワークを用いて自動評価するシステムの構築に成功した。また、ユーザーの感性を満足させるボタン押し音が、そのモデルによって作成可能であることを示した。 (ページ数:10頁) (著者名 大西巖, 石光俊介, 阪本浩二) (担当:研究統括)
5 (学術論文) Automatic Evaluation of Button Sound Impressions Using a Neural Network 《筆頭論文》	共著	2010年9月	International Journal of Reserch and Surveys, Innovative Computing, Information and Control, Vol.4, No.3(A), p.683-689.	本論文では、ボタン押し音を自動で評価するシステムを構築した。ウェブレット変換により解析したボタン押し音の音響情報を入力することにより、未知のボタン押し音に対しても自動でその印象評価することに成功した。 (ページ数:7頁) (著者名 Gen ONISHI, Shunsuke ISHIMITSU, Koji SAKAMOTO, Toshikazu YOSHIMI, Yuichi FUJIMOTO, Kenichi KAWASAKI) (担当:研究統括)